



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



TOPICS ● トピックス

第11回 地域医療懇談会

夢の平コスモス畑

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 第11回 地域医療懇談会	P.01
特集 第10回 広げようブルーサークルの輪 in ひみ	P.02
大浦先生の診察室から	P.03
診療コラム	P.04
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.08
まちかど情報	P.09

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



第11回

金沢医科大学氷見市民病院
地域医療懇談会

平成30年10月13日(土)午後6時から、第11回金沢医科大学氷見市民病院地域医療懇談会が、ホテルニューオータニ高岡にて開催されました。この会は、県内開業医の先生方や医療・介護施設関係の

方々との連携を深めることを目的に毎年行われ、今年で11回目となります。今回は富山県内、七尾市から医科、歯科の院長先生や施設関係者の方など29名にご出席いただきました。また、当院からは松

の治療法や治療の実際として事例をあげて紹介されました。

第1講演は、副院長・脳神経外科 高田久教授 から「当院における脳ドックの実績について」と題して講演があり、脳神経外科で行っている脳ドックの実績を平成23年10月から平成30年9月まで細かく解析され、脳梗塞の危険因子などの内容が報告されました。また、脳ドックを受診することで早期発見、早期治療につながることを説明されました。

続いて第2講演は、副院長・循環器内科 福田昭宏教授から「高

齢心房細動患者に対する抗凝固療法」と題して講演があり、初めに平均寿命や平均余命、高齢化率について説明があり、その後、心房細動についてや心血管疾患の有無別にみた脳卒中の発症頻度との関係性などが報告されました。また、当院の循環器内科における状況についても報告されました。

懇談会後は、梅病院長の開会挨拶の後、氷見市医師会高木義則会長のご発声で乾杯され懇親会が開催されました。

その後は終始和やかに会が進み、出席された方々の親睦が深まりました。閉会の挨拶は上端雅則副院長・事務部長からあり盛会のうちに終わりました。

今後も氷見市の中核病院として各医療機関や施設の皆様との連携を深めながら、地域医療に貢献していきたいと思えます。



松本最高経営責任者開催挨拶

本忠美最高経営責任者をはじめ梅博久病院長、診療科長など43名が出席しました。懇談会では、はじめに松本最高経営責任者から、開催挨拶があり、続いて梅病院長よりこの一年間の当院の実績、行事等の報告と、病院の役職者、新たに着任した医師の紹介がありました。

次に、神経内科富岳亮教授を座長に「診療紹介」が行われ、最新



氷見市医師会高木義則会長乾杯

平成30年11月10日(土)午後1時30分から6階多目的ホールにおいて「広げようブルーサークル in ひみ 健康講座」が開催されました。11月14日は、インスリン発見者フレデリック・バンディング博士の誕生日にちなみ世界保健機構(WHO)が定めた「世界糖尿病デー」です。世界各国で糖尿病に関する様々なイベントが開催されており、平成30年11月12日から11月18日は全国糖尿病週間、11月14日は全国各地が青い光で包まれます。

当院の糖尿病委員会と氷見市医師会、氷見市健康課が共同で健康講座を開催し、約50名の市民参加がありました。

健康講座では、まず福田内科医院福田一仁先生により「氷見市における糖尿病の現状」についてご紹介していただきました。氷見市(国保加入者)の糖尿病受療率が70代では約20%と高く、氷見市民として現状を突きつけられ驚かれた方も多いはず。次に、当院リハビリテーション部廣瀬悠基・中

西啓祐理学療法士による「運動のすすめ」と題し講演がありました。平均寿命と健康寿命の違いや、健康長寿3要素「適切な食生活・社会参加・適度な運動」について学び、実際に筋力をつける運動を皆で行いました。健康意識の高い参加者の方が多く、筋トレにも笑みがこぼれておりました。その後、栄養部山本一八管理栄養士による「糖尿病ワンポイントクイズ」を



「運動のすすめ」の講演

実施し、炭水化物や果物の目安量を楽しく理解しました。

特別講演として、独協医科大学内分泌代謝内科糖尿病センター長薄井勲教授をお迎えし、「糖尿病と一緒に長生きするコツ」について講演をして頂きました。糖尿病では多くの血管障害が生じるのですが、動脈硬化症として「脳卒中・心筋梗塞・末梢血管病変(壊疽・下肢切断)」、糖尿病3大合併症として「網膜症(失明)・腎症(人工透析)・神経障害(しびれ・立ちくらみ



薄井勲先生の講演

等)」についてわかり易く講義して頂きました。特に高齢糖尿病患者の方は、サルコペニア(筋力の低下)・認知症・低血糖に注意が必要です。薄井教授は富山県と栃木県の食文化や車保有数を比較したり、ある患者さんの例を用いたり、一般市民の目線で「がん検診・肺炎球菌予防接種」をアドバイスされました。参加者から「糖尿病の怖さを改めて再確認し、生活習慣の見直しに励みたい」と感想が寄せられました。

また、ロビーでは看護師による血糖・血圧測定や管理栄養士による体験型栄養教育システム(SAY)の体験も実施しました。参加者からは、「野菜を食べる心がけが出ていなかった」「飲酒時はどうしても塩分が多い」との感想があり、ご自身の健康チェックの参考にされています。

今後も市民の方が、糖尿病における興味・関心を持ち、ご理解ご満足ゆく健康講座を目指していきたいと考えております。

大浦先生の 診察室から

耳鼻いんこう科
診療科長

大浦 一子
KAZUKO OURA



耳鼻いんこう科スタッフ一同

「耳 鼻咽喉科」っていったい何をやっているところだろう、漢字が多くて難しそう、何をされるかわからなくて怖いという方がいます。

耳鼻咽喉科は首から上で、脳と眼と歯と首の骨以外を診療の対象としている科です。聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚など感覚の障害、言語障害などコミュニケーションの障害を扱います。

①耳…「音を聞く」「体のバランスをとる」

②鼻…「においを嗅ぐ」「呼吸の際に外気に加温、加湿を行い、ごみを取り除いて吸い込む」「声の音色を作る」

③咽頭…「鼻の奥から、食道の入り口までの間」「空気を通す」「食物を食道へ送る」

④喉頭…「咽頭の一番下(下咽頭)と気管の間、喉仏の裏側あたり」「空気を通す」「発声」

⑤口腔…「口の中 歯以外の部分を耳鼻科が担当します」「食物をよくかんで咽頭へ送ること」「味をみること」

⑥唾液腺…「耳下腺、顎下腺、舌下腺のこと」「唾液をつくること」

⑦甲状腺…「前頸部、のどぼとけの下方にあります」「甲状腺ホルモンを作る」

以上の部位の診療を行います



大浦 一子 ★ 略歴

【略歴】

- ◎平成 8年 3月 信州大学医学部医学科卒業
- ◎平成 8年 4月 信州大学医学部 耳鼻いんこう科入局
- ◎平成 10年 6月 厚生連佐久総合病院 耳鼻いんこう科
- ◎平成 12年 6月 群馬大学 耳鼻いんこう科
- ◎平成 13年 11月 国立病院機構高崎総合医療センター 耳鼻いんこう科
- ◎平成 16年 4月 やわたメディカルセンター 耳鼻いんこう科
- ◎平成 22年 5月 金沢医科大学氷見市民病院 耳鼻いんこう科

【所属学会】

- ◎日本耳鼻咽喉科学会
- ◎耳鼻咽喉科臨床学会

す。それぞれの器官がつながっているの、別々にみえて実は関係が深いのです。一つの具合が悪くなると、他の具合も悪くなる場合があります。

気になる症状があれば、気軽に受診してみてください。

「コミュニケーションの障害として多いのは、加齢による難聴です。一般に、加齢による聴力低下は高音部の低下で「言葉の聞き取りがうまくいかない」「何か言っているのは気づくが、何を言っているのかはつきりしない」という自覚症状につながります。また機械を通

した音も聞きづらくなるので、テレビの音が大きくなります。「きこえない」ということは疎外感を抱かせ、精神不安につながります。本人が感じている不向きに対して思いやりを持ちましょう。

周囲の家族はゆっくりと滑舌よく話せば、ほとんどの方は会話が可能で、顔を見て話すことが重要です。早口はいけません。

加齢による難聴なら、現在は補聴器で対処するしかありません。今は、補聴器が必要なほどは悪くないのにつけている方が多いようにも思います。正確な聴力検査を行い、本当に補聴器の適応があるのか判断することが必要です。気になる方は、一度ご相談ください。

診療コラム

最近、歩くのが下手になった

秋深まり行楽日和をいかがお過ごしでしょうか。

年を取ると歩行もおぼつかなくなるのは当たり前。うちのおじいさん、おばあさんもいつからか腰が曲がり、歩行が遅くなり、ふらつくようになったがもう年だから仕方がないと年のせいにしていませんか。その歩行、年齢から来るものではなく病気かもしれません。もちろん、我々いつかは歩けなくなり死んでいくものです。しかし適切な診療により自分でしっかり歩ける期間は長くなります。

どのようにして歩行ができなくなっていくのでしょうか。まず急に歩行しづらくなり、できなくなる場合と、徐々に歩行がおぼつかなくなり、不安定となり、さらには転倒するようになる場合とがあります。ここでの急には今朝からまたはこの2〜3日ぐらいで歩行ができなくなる場合を指します。急に歩行できなくなる病気は脳卒中が代表的です。片方の足が思うように動かせない又は歩行時にふらついてまっすぐ歩けなくなります。脳卒中だけでなくそ

他の原因による場合もありますがその区別をするのは我々の仕事です。いずれにせよこの場合は迅速な診断と治療が必要です。できるだけ早く医療機関を受診することをお勧めします。ただし、今朝から歩けなくなったのに気付いた時には、実はもう少し前から徐々に歩行が下手になっていなかっただかを冷静になって思い起こしてください。そしてその場合は例えば1〜2か月前など、どれくらい前から歩行がおぼつかなくなったか、そして徐々にひどくなっているかどうかを我々に伝えてください。なぜなら徐々に歩行がおぼつかなくなった場合と急に歩けなくなった場合とでは病気が異なり、我々の対応も違ってくるからです。どのような経緯で歩行がしづらくなったかを細かく知らせていただくことにより、的確にそして迅速に診断治療ができます。患者さんにより良い治療を迅速に行うためによりしくお願い致します。

それでは徐々に歩行がしづらくなるのはどんな経緯でしょう。例えば1〜2年前から歩行がゆっくりにな

なった、ふらついて安定しなくなつた、時々止まるようになったなど、それらが2〜3か月前からひどくなり最近歩けなくなった、というような場合です。この場合は歩行しづらさに加え手の震えなどを引き起こすパーキンソン病、歩行しづらさと共に物忘れを引き起こすアルツハイマー病・レビー小体病などのさまざまな認知症疾患、筋力の低下に加えバランスが悪くなる脊髄と小脳を冒す病気などがあります。

近所のおじいさん、おばあさんで昨年の秋までは何とか歩いていたが、冬を越えて春になってみると歩けなくなり、車椅子で医師の診察を受けたらもう手遅れですと言われたという話を聞きます。年だから足腰が弱くなるのは当たり前と様子をみずに、歩けなくなる前に歩行が下手になったと思つたらぜひ受診してください。徐々に歩行ができなくなる病気には進行して車椅子生活になってしまう病気が多くあります。そのような病気でも早くから薬を飲み始めれば、自分で歩くことができ期間を10年以上保つことが可能な



病気もあります。また手術をすれば元通りに歩行できるようになる病気もあります。手術となるとしり込みしがちですが、手術の適応のある方は手術をすれば歩行もできるようになりますので、少しでも若いうちに診断を受け手術に踏み切っていたければと思います。

人生100年と言われる時代になりました。歩行がおぼつかなくなったのを年のせいとせず、早い時期に医療機関を受診してください。そして歩行のおぼつかなさや病気によるのか歩く機会が減った年のせいなのかをはっきりさせ、病気の場合は適切な治療を早く受け、年のせいの場合は歩く機会を増やしてしっかり歩行をする元氣な100歳を目指しましょう。

神経内科 臨床教授 富岳 亮

平成30年度 健康づくり教室

平成30年度の健康づくり教室が当院6階多目的ホールにて開催されました。地域の皆さんの健康づくりに役立てていただくために平成25年度に初めて行われてから今年で6回目となります。

【第4回】 9月15日(土)

演 題 花粉症 2018〜舌下免疫療法〜
講 師 耳鼻いんこう科 講師 大浦 一子
参加者数 136名



アレルギー性鼻炎の診断と治療について説明されました。これまでの対症療法のための薬物治療以外に、アレルゲン免疫療法と呼ばれる新しい治療方法の薬があり、副作用や適応などについて、分かり易く解説がされました。講演では主にスギ舌下液、スギ舌下錠、ダニ舌下錠などの薬について紹介があり、講演終了後熱心に質問される受講者が多くいらっしゃいました。

【第5回】 10月20日(土)

演 題 「おしっここのトラブル」
〜夜間頻尿・尿失禁〜
講 師 泌尿器科 教授 森山 学
参加者数 157名

まず、おしっこが膀胱から排尿される基本的な仕組みや男女別の尿路の構造と特徴が説明された

後、夜間頻尿、尿失禁について解説されました。

夜間頻尿については、若い世代は、日

中に仕事や学校など決まった時間割で活動しており、排尿も決まった時間で日中に多くなるのに対し、定年後など特に決まった時間割がなく悠々自適に生活している方は、排尿時計がしっかり働かず、日中夜間問わず、尿が作られ夜間頻尿となる場合が多い。日中にこれまでしたことのない運動や語学、楽器などに取り組み時間割をつくり、生活習慣として睡眠サイクルを作ることがもっとも重要であると説明されました。

尿失禁については、尿道が短いに加え、出産を経験されている女性に多く、おしっこなどを止める筋肉である骨盤底筋が加齢も重なり弱くなっている。骨盤底筋をトレーニングにより鍛えるための体操がDVDを用いて紹介されました。



【第6回】 11月17日(土)

演 題 超スーパーロボット人間
講 師 整形外科 教授・最高経営責任者 松本 忠美
参加者数 156名

骨や関節の仕組み、軟骨の役割などについて説明を行った後、ベッドの上で実際に高齢者でも可能な簡単な運動の実演がありました。自分で出来る事は自分ですること、歩くことが出来なくても立ちあがって日光を浴びることが薦められました。長寿社会となり、車のエンジンオ

イルにあたる潤滑油が不足する年代の方々には、毎日運動を行うことによって、骨折等を予防することが薦められました。会場からは運動の効果について質問があり、無理の無い範囲で続けることが大切であるとの話がありました。



閉講式

閉校式には今年度全6回開催された講座の受講者の中から、4回以上受講された165人の方に梅博久病院長から修了証が授与されました。今年度の受講者数は276名の方が申し込まれ延べ977人の方が参加されました。



医療安全対策・感染防止対策 地域連携加算相互ラウンド

平成30年度 医療安全対策及び感染防止対策地域連携加算に係る医療機関相互チェックが平成30年9月21日(金)に当院で行われました。本相互チェックは医療事故・院内感染の防止を図るため、第三者的視点から検証を行い、地域の病院間における情報の共有を図り、他病院の創意工夫を学ぶことを目的として実施されました。感染防止対策に関しては富山大学附属病院様が4名訪問され、院内ラウンドが実施されました。採血室では実際の手法を見て頂くなど、詳細なチェックを行って頂きました。医療安全対策に関しては富山赤十字病院様が6名訪問され、書類審査や院内各部署の訪問が行われました。医療安全対策に関しての地域連携に係る相互チェックは今年度初めて開始され、死亡事例のチェック体制や医療事故の対応等について指導を行なって頂きました。



病棟ラウンド風景



医療安全対策相互チェック



感染防止対策相互チェック

ほっとカフェ

金沢医科大学氷見市民病院では毎月5日と20日に院内カフェを開催しています。65歳以上の高齢者、認知症や障害者の方、介護をされている方を対象に参加を受け付けています。さまざまなイベントを企画しておりますので、ぜひご参加下さい。



●振り込め詐欺ミニ講座 平成30年10月5日(金)

当院の病院2階レストラ
ン前ロビーにて氷見警察署員による振り込め詐欺講座を行いました。氷見警察署から来ていただいた講師の先生からは自分だけは騙されないと思わず「お金の話であれば詐欺と思つて下さい。」と受講者に注意が促されました。



氷見警察署警察官による振り込め詐欺ミニ講座

●タッチセラピー 平成30年9月20日(木)

当院の病院2階レストラ
ンでボランティアによるタッチセラピーを行いました。セラピーを担当していただいたボランティアの方からはタッチセラピーに関して次のようなPRをお寄せ頂きました。



タッチセラピーの風景

「触れる、さする、撫でる」の行為で、受けている方の表情が生き生きと変化していく様子を目の当たりにすると、医療の原点が「手当て」であったというのを思い起こします。ここちよい皮膚感覚、そして「あなた」と「わたし」の共有の時間と空間に意識を置くと「無条件の受け取り」という幸福感を体験できるはずです。

社会に学ぶ「14歳の挑戦」

【実施期間】

前期：平成30年7月2日～6日(氷見市立北部中学校)
後期：平成30年10月1日～5日(氷見市立南部中学校)

「14歳の挑戦」は、県内の中学2年生を対象とした職業体験学習で、平成11年の事業開始以来、当院でも毎年受入れを行なっています。

今年7月に北部中学校、9月に南部中学校より計12名の参加のもと、各5日間の体験学習を実施し、へき地巡回診療への同行、実際の医療機器を用いた操作体験や薬剤部での調剤体験など、各部門のスタッフらが今回のために工夫を凝らしたプログラムで学生を迎え入れました。

参加した学生は皆医療現場への興味関心が高く、初めて立ち入る医療現場の緊張感を肌で感じながら、真剣に取り組む様子がみられました。

病院ではさまざまな職種が患者さんのためにチーム一丸となって働いていること、日々進歩する医療に対し、スタッフが常に知識更新に努めていることなど、実際の仕事に触れ聞きする中で、新たな発見や驚きがあったようで、毎日の活動日誌を通じて皆思い思いの感想を寄せてくれました。

今回の体験が、将来の夢や目標を見つける上で、何かしらの有益をもたらす機会となれば幸いです。

未来への可能性に満ちた彼らの今後の活躍を職員一同祈念しております。



中学生によるへき地診療体験

外来患者さんの満足度調査結果
 ―平成30年度外来患者満足度調査結果をお知らせします―

開院から10年が経過しましたが、今回外来診療における患者さんの「当院受診のきっかけ」や「受診時の対応」などについて患者さんの満足度の度合いや意見を直接アンケート形式でお伺いし、これを今後の外来診療の機能向上の改善資料とすることを目的として、平成30年9月10日・12日の2日間にわたり外来患者満足度調査を実施しました。

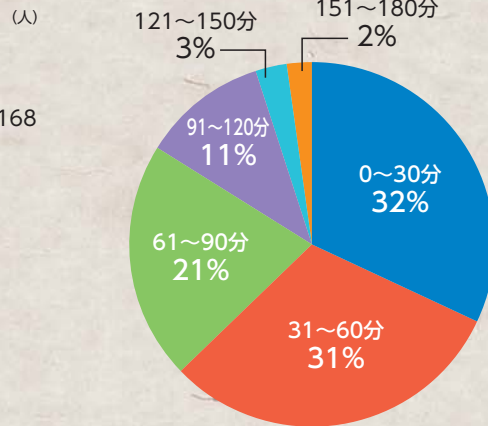
期間中のアンケート配布数は586枚、患者さんからの回収数は352枚（回収率60・1%）でした。調査結果から今後当院に望むことでは「待ち時間の解消」が一番多く、続いて「専門医療の充実を望む声」が高まっています。また、職員の接遇対応では、前年度と比較し全体的に満足度は高くなっていました。

今回の満足度調査結果を踏まえて、診療システム等の改善対策を検討しながら「より良い安全で快適な診療」を目指して、病院の診療サービス向上に努めていきたいと考えています。

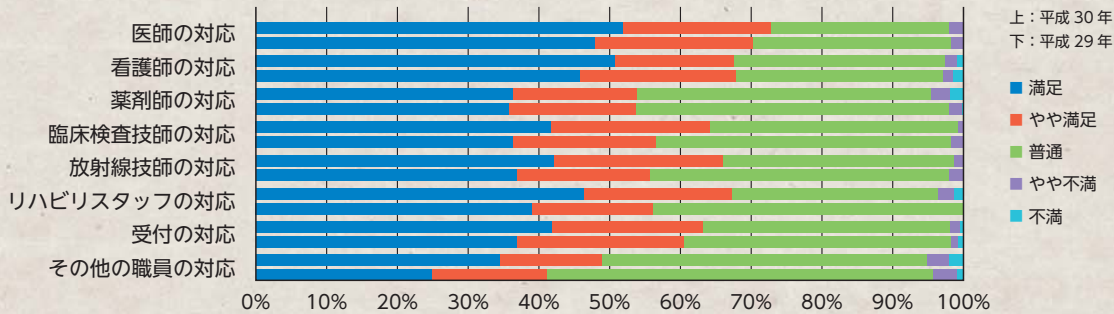
当院を受診したきっかけ



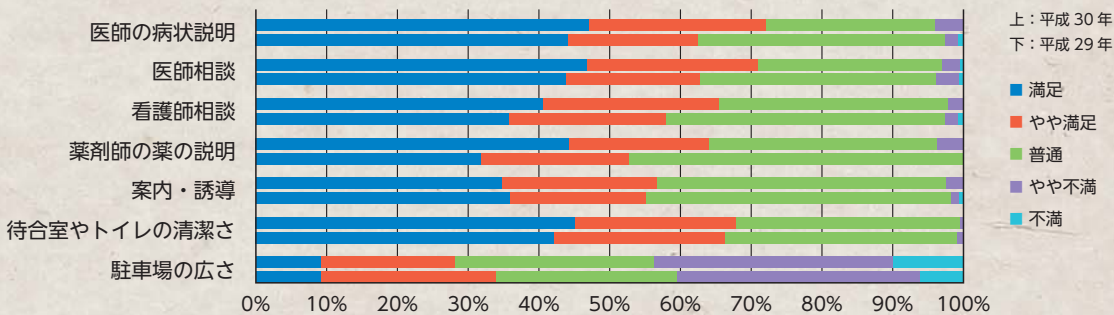
待ち時間



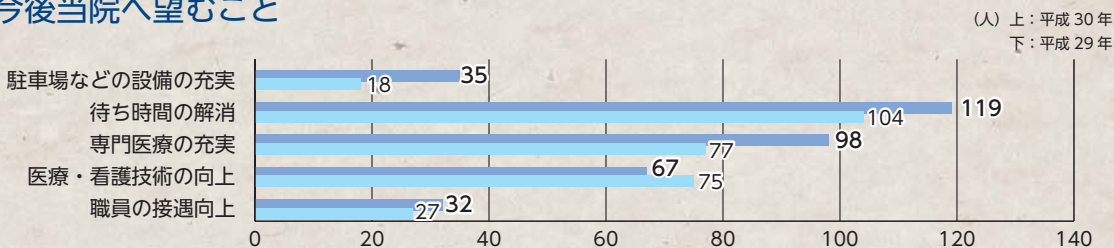
職種別の対応



項目別の対応



今後当院へ望むこと



病院からのお知らせ掲示板

●平成30年度
「高齢者の肺炎球菌感染症
ワクチンの定期接種」について

平成30年度定期接種の対象者の方

65歳	昭和28年4月2日生れ ～昭和29年4月1日生れ
70歳	昭和23年4月2日生れ ～昭和24年4月1日生れ
75歳	昭和18年4月2日生れ ～昭和19年4月1日生れ
80歳	昭和13年4月2日生れ ～昭和14年4月1日生れ
85歳	昭和8年4月2日生れ ～昭和9年4月1日生れ
90歳	昭和3年4月2日生れ ～昭和4年4月1日生れ
95歳	大正12年4月2日生れ ～大正13年4月1日生れ
100歳	大正7年4月2日生れ ～大正8年4月1日生れ

対象となる年度においてのみ定期接種としての公費助成が受けられます。

この制度では今までにワクチン（23価肺炎球菌英膜ポリサッカライドワクチン）を接種したことがない方を対象に、平成30年度までの間に1人1回、定期接種の機会を設けています。接種対象期間は平成31年3月31日までです。早めの接種をおすすめします。

※平成31年度は65歳の方のみが対象となります。定です。

●麻疹や風疹のワクチンは
接種していますか？

今年春に麻疹が流行しました。沖縄県で海外旅行者から伝播し、愛知県では医療関係者にも感染しました。また、今は風



疹が関東で流行しており、全国での報告数は昨年の20倍となっています。富山県でも10月に入り、風疹の感染者が報告され、事業所内での二次感染も発生しました。麻疹や風疹などの流行性ウイルス疾患を予防するためにはワクチン接種が有効です。子供のころワクチン接種をしたかどうか母子手帳などで確認してください。記録がない場合は一度抗体価を測定し規定値に達しない場合は一度抗体価を接種することをお勧めします。現在、ワクチンは一定の期間において2回接種することを推奨されています。抗体価測定や予防接種を希望される場合は一度電話でお問い合わせください。

金沢医科大学氷見市民病院

(電話)0766-74-1900

内線1022

年末年始休診について

12月29日(土)～1月3日(木)
までの6日間は外来診療を休診します。

急病の場合は救急外来を受診してください。受診する際は、必ず健康保険証をご持参ください。

また、休日や夜間等の時間外は専門医師が少なく救急診療体制のため、緊急を要しない場合は通常の診療時間内に専門診療外来を受診されるようお願いいたします。



病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

氷見市民病院へは NPO上庄谷バスが便利です!

加越能路線バスが上庄谷地区から撤退し、病院受診の際、家族の協力が不可欠となっていた方も多いと思います。今年10月よりNPO上庄谷バスの運行が開始となりました。久目線・速川線・熊無線の3路線があり、平日4往復、土曜日2往復運行されます。すべて市民病院経由氷見駅まで行きます。「今までより近くにバス停ができて便利になった」という話も聞かれます。黄色いバス停です。みなさんもぜひ見てみてください。



エコロジーガーデン ecology garden

当院では、院内緑化をすすめ、来院された患者さんやご家族の方々に安らいだ環境を提供できるよう努力しております。この院内緑化は、下記のスポンサー企業の協賛のもとに維持運営を行っております。

スポンサー企業

- (有)アカシア商会 ●サカキ産業(株) ●たんぼ薬局氷見店
- ニッショク(株) ●日本海綿業(株) ●ファーマライズ(株)
- (株)ビー・エム・エル ●氷見伏木信用金庫
- 北陸コカ・コーラボトリング(株) ●菱機工業(株)
- 米沢電気工事(株) ●(株)山下設計 ●(株)ワールドシンコー



表紙について

夢の平スキー場のゲレンデ2.4ヘクタール一面に広がるコスモス畑。6品種100万本の色とりどりのコスモスが見渡す限りの花の絨毯のように咲き誇ります。また、ゲレンデからコスモスとともに眺める砺波平野の散居村の景色も絶景です。

編集後記

ついこの前まで猛暑で毎日「暑い、暑い」と大変でしたが、気づけば秋となりあっという間に今年も終わりに近づいています。平成最期の秋です。マラソンでもよし、サイクリングでもよし、食べ歩きでもよし、旅行でもよし。みなさんも悔いのない年で終われるよう有意義に過ごしてみてください。ちなみに長期天気予報では冬は平年並みとのことです。慌てないよう、早めに冬の準備をはじめましょう。



かけし秋号編集委員 看護部 岸田 直美

■広報誌「かけし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。